

需要の停滞、見通しは、険しく不透明な状況にある。

<コメント> 山口商工会議所では、管内中小企業95社を対象に景況調査を実施し、このほど平成20年10～12月期の実績と平成21年1～3月期見通しについての調査結果をまとめた。(回答数68社、回答率71.6%) 調査は3ヶ月毎に行う。前年同月比の今期(平成20年10～12月)の状況について集計したところ、業況判断DIは前回同様マイナスとなった。業況判断DIは製造業で改善したが、全産業、各産業ともかわらずマイナスで推移している。売上については、全業種マイナスながらも、建設業の-6.4%が際立っている。仕入単価は、原油高騰などの影響から、DIが全業種では-4.6%依然増加傾向にある。建設業、サービス業で落ち着いてきているものの、単価の上昇には、引き続き注意が必要である。今期中に設備投資を実施した企業は全体の5.7%、来期設備投資を計画する見通しである企業は2.8%と、前回調査より設備投資意欲が後退している。今期の経営問題では、「需要の停滞」、「仕入単価の上昇」などの課題が上位に入っているのが目を引いた。

業況DI値(今期の状況)

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数増減	前回調査比
全産業	-36%	↘	-37%	↗	-27%	↘	46%	↗	-45%	→	-13%	↘
製造業	-17%	↗	-29%	→	-17%	↗	71%	↗	-43%	↘	-25%	↘
建設業	-50%	↘	-64%	↘	-42%	↘	0%	↗	-50%	↗	-33%	↘
小売業	-32%	↘	-28%	↗	-36%	↘	48%	↗	-40%	↘	-5%	↘
サービス業	-36%	↘	-36%	↘	-14%	↗	45%	→	-44%	↘	-9%	↘

産業別景況判断DI(前年同期比)の推移と来期見通し

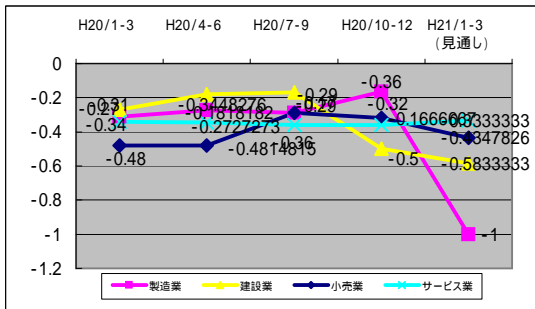
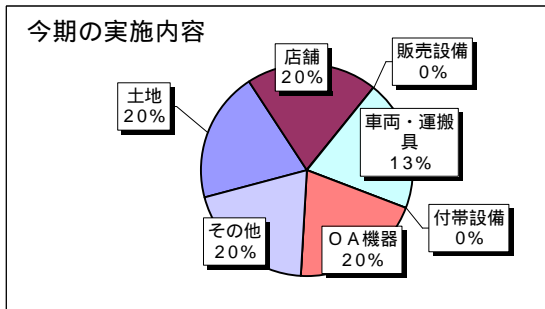


図1 今期中の設備投資の内訳(%)



全産業DI項目別比較(3期実績と来期見込比較)

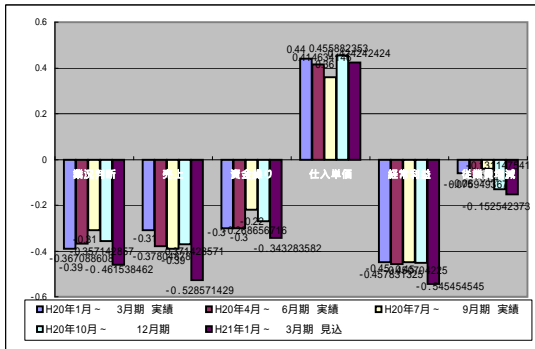


図2 経営上の問題点

順位	製造業		建設業		小売業		サービス業	
	問題点	割合	問題点	割合	問題点	割合	問題点	割合
1位	原材料価格の上昇	32.1%	民間需要の停滞	23.6%	需要の停滞	22.5%	需要の停滞	24.6%
2位	人件費の増加	21.4%	官公需要の停滞	22.2%	大型、中型店の進出による競争の激化	12.0%	利用者ニーズの変化への対応	20.3%
3位	需要の停滞	10.7%	請負単価の低下・上昇難	13.9%	消費者ニーズの変化への対応	12.0%	材料などの仕入単価の上昇	13.6%

注) DI(状況判断指数)とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「増加」「好転」したとする企業割合から「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。